

テーマ：7-9月期GDP統計（二次速報）予測
 ～ 設備投資の下方修正を主因に、GDPは前期比+0.3%への下方修正を予想 ～

発表日：2006年12月4日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
 副主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528

○ 設備投資の下方修正により、実質GDPは一次速報から下方修正される見込み

12月8日公表予定の2006年7-9月期実質GDP成長率は前期比+0.3%（前期比年率+1.3%）と、一次速報（前期比+0.5%、前期比年率+2.0%）から下方修正されると予想する。また、前年比も+2.2%（一次速報段階：同+2.7%）と下方修正されると見込む。

設備投資が前期比+1.6%と、一次速報段階の同+2.9%から下方修正されるとみられることが最大の要因である。一次速報段階で未公表だった9月分の生産動態統計が供給側推計値の上方修正要因になるとみられる一方で、本日公表された法人企業統計季報において、設備投資が4-6月期の高い伸びからの反動もあって伸びを鈍化させたことが響いた模様だ。また、民間在庫投資増減については、推計方法の変更等もあって不確定要因が大きい。対GDPの前期比寄与度が+0.2%ポイントと、一次速報段階の同+0.3%ポイントから小幅下方修正されると暫定的に予想する。

その他の需要項目では、輸入が若干下方修正されるとみられるほか、2005年度確報が公表された影響により公共投資が上方修正されると予想する（前期比▲4.9%、一次速報段階：同▲6.7%）。個人消費や政府消費、住宅投資に関しては、前年比では下方修正されるものの、前期比ベースで見れば大きな修正はないと思われる。

(前期比、%)

	2006年 7～9月期	2006年 7～9月期
	一次速報	二次速報予測
実質GDP	0.5	0.3
前期比年率	2.0	1.3
前年比	2.7	2.2
内需寄与度	0.1	▲0.1
民間最終消費支出	▲0.7	▲0.7
民間住宅	0.1	0.1
民間企業設備	2.9	1.6
民間在庫品増加(寄与度)	0.3	0.2
政府最終消費支出	0.1	0.1
公的固定資本形成	▲6.7	▲4.9
外需寄与度	0.4	0.4
財貨・サービスの輸出	2.7	2.7
財貨・サービスの輸入	▲0.1	▲0.4
名目GDP	0.5	0.3
前期比年率	1.9	1.1
GDPデフレーター (前年比)	▲0.8	▲0.7

○ 不確定要素が多いため、予想は幅をもってみる必要あり

12月1日に2005年度のGDP確報が公表され、2005年度の実質GDPは、それまでの前年度比+3.3%から+2.4%に大きく下方修正された。また、それ以前の値も遡及改定されている。さらに、現時点では2006年1-3月期までしか実績値が公表されていないことに加え、季節調整値も未公表である（季節調整モデルも未公表）。こうしたことから、今回の2006年7-9月期GDP二次速報の予測を正確に行うことは極めて困難である。そのため、今回の予測値には十分幅をもってみていただきたい。